

## メンバー紹介

その8

鈴木 洋美 (アトリエ hiro)

昨年6月より入会させて頂きました鈴木洋美です。

スタンド歴は28年目になりますが、今迄は照明器具の会社とコラボし、インテリアショップのオリジナルランプの製作、自宅教室、パネル受注等、細々とやってきました。しかし商品の製作ではなく作品の制作もしたいと思う様になり美術協会に所属していましたが、縁あって作家協会へ入会させて頂きました。なので作家としてはまだまだ新人です。

なかなか自分の制作時間が取れず焦っています少しずつ作っていきたいと思っています。

これからどうぞよろしくお願いします。

竹鼻 野菊 (アトリエ シオン)

今、近江福音自由教会の大きな丸窓製作中で、新しいアメリカのダイクロガラスと古いヨーロッパのアンティークガラスを使用し、昼夜でデザインが変わります。又鏡に日本の生漆を塗り、イタリアのミルフィオリとミックスしたり、新しい物と古い物、ヨーロッパと日本、アメリカと、次元空間を超えてデザインに合ったガラスを使用した試みを続けています。所属する藤井寺キリスト教会の「新会堂にスタンドグラスを献げよう！」と決意し深江橋のベニス工房を訪ねたのが25年前。アンティークガラスで30×180cmを4面、阪神大震災の直前に仕上げました。その後メキシコの工房で学んだヒュージングやモザイク、新たにサンドブラストも加えて色々制作するようになるのだが、工芸高校や大阪芸大で学んだ油絵、デッサン、色彩の基礎、版画がその基にはあります。

癌で若くして主人を亡くした私がアトリエで夜通し制作する姿を見て母は「あの子はスタンドグラスと再婚した！」と言っていました。現在高校では非常勤講師として美術を教え、アトリエでスタンドグラス教室、家では介護と家事と多忙な、しかし充実した毎日を感じながら歩んでいます。

ホームページをご覧ください

<http://jsgaa.org/>

## 活動報告

### 2015年東京展実行委員会の開催

2014年11月17日(月) 第1回、12月15日(月) 第2回、2015年1月26日(月) 第3回実行委員会、1月27日(火)西日本地区展示責任者打ち合わせ会を開催しました。

会議の内容、決定事項については議事録にてご確認をお願いします。

### 展示会のお知らせ

#### ◆ 第4回 JSGAA 日本スタンドグラス作家協会展

##### 2015 東京 “EMOTION IV 感動”

会期：2015年4月18日(土)～23日(木)

※20日(月)は休館日

9:30～17:30 ※最終日 9:30～14:00

会場：東京都美術館 2階第2公募展示室

#### ◆ JSGAA 日本スタンドグラス作家協会 フランス・パリ展

##### 一世紀の時を経て 《AU FIL DU TEMPS》

会期：2015年11月17日(火)～28日(土)

会場：パリ日本文化会館・地上階

\*\*\*\*\*

#### 編集後記

今回、会員のみなさまにはたくさんの記事をお寄せいただきありがとうございました。全部を載せられなかったことをお詫びいたしますとともにこれからもご協力よろしくお願いします。

\*\*\*\*\*

発行日 2015年2月20日

発行者 日本スタンドグラス作家協会

(事務局) 〒108-0074 東京都港区高輪4-2-7-201

林 晶子 (A工房)

[info@jsgaa.org](mailto:info@jsgaa.org)

編集者 〒841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町1589-3

櫻井 由美 (スタンドグラスオブ Y's COMET) TEL0942-84-5546

編集委員 滋野 晶江 (アトリエIM)

田所 孝一 (スタンドグラス工房 K.T)

日本スタンドグラス作家協会

Japan Stained Glass  
Artist's Association

日本スタンドグラス作家協会  
会報誌

JSGaA

第13号

2015年2月 Vol.13



The Eiffel Tower Shigeno Masae

## エッセイ

### — 暮らしを彩るステンドグラス —

私はアメリカやヨーロッパの映画やテレビドラマを見て余暇を過ごします。そこでは、それぞれの国の歴史や文化に根ざしたステンドグラスのパネルやランプが効果的に登場します。最近では日本のテレビドラマ等でもよく目にするようになりました（もっとも私自身がステンドグラス製作に関わっているのも、よく目につくのかもかもしれませんが）。素敵だなあとか、ちょっと場面に不釣り合いじゃないかなとか勝手な感想を持ちながら見えています。

私たちも自分の趣味や価値観で好きなものを選び、生活空間を居心地のよいものにしていますよね。私のお教室にいらっしゃっている皆さんは、ガラスの魅力に魅せられて集まった方々ですから、ステンドグラスを利用して様々な作品を作り、好きな色、形、デザインの作品たちに囲まれて暮らしています。



皆さんは思い思いにパネルやランプシェード、オブジェのような大作から、ご自身用、お友達へのプレゼント用のかわいい小物まで飽きることなく製作します。ガラスにはそれぞれ豊かな色彩や質感等の個性が

ありますので、皆さんが作りたい作品のイメージとガラスの個性とのマッチングがとても大事ですが、私は皆さんがイメージ通りの作品を製作できるようにお手伝いをしています。

写真はそんな皆さんのお住まいを写した一部です。作品達が周り調和して、心豊かな居心地のよい空間を作りだしていると思いませんか？

これからも、皆さんと一緒にあれこれ工夫しながら、暮らしを彩るステンドグラスを製作していきたいと思えます。

文章・写真

ステンドグラス工房 明里 北田峰子

### — 瓦礫の中の叫びを光に変えて —

地鳴りとともに襲った突然の恐怖、一瞬何が起こったのか地は揺れ喘ぎながら家族を集めるのにやっと。マグニチュード7.3の大地震発生、間を置き次々に報道される現実、都会の崩壊を目の当たりに押し付けられて来た。高速はひん曲がり巨大ビルの倒壊、舞い上がる粉塵と火の手に人々はみるみる飲み込まれていった。国道は、崩壊した建物が重なり合い交通手段が遮断、港の壊滅に運輸不能による食糧難に重ねてライフラインのストップ。大切な研究を続けていた友人が校舎の下敷になり亡くなり嘆き悲しむO大学の若者たち、疲労で憔悴しきっていた。罹災したスタッフ達もアトリエに集まった。「そのまま行こう！すぐに向かったのは、O大学。一緒に手を取りあって、励まし続け、着の身着のままの震える人々のなかで、一緒に水や食料を配りながら希望の光を見いだすべく励まし合った。

平和な豊かな経済都市を襲った1995年の突然のあの震災から20年、バブル崩壊で平成不況が始まりかけていた矢先、相次いで起こる「地下鉄サリン事件」「アメリカ同時多発テロ」「リーマンショック」「東日本大震災」次々と続く出来事に明日、何が起こるか解らない一瞬先が闇と云う現実。

このような世の中だからこそ、永遠不滅の「真理」が問われるときです。これを具現化出来るのは、芸術家のみです。芸術が人の心を揺り動かすのです。光は多くの人々に共感を呼びました。元気に生きる力を与えました。大手前大学のエントランスには「春を謳う」が建築家を巻き込み皆の手で、その後罹災者からの相次ぐ要望で神戸元町三宮には「新天新地」を。人々はすぐに光りに向かって復興に立ち上がったのです。

今静かに祈りましょう。人間は、謙虚になって神の声を聞くべきときが来ました。無くなった人々に鎮魂の祈りを捧げたいと思えます。

文章

三浦啓子アトリエロクレール 三浦啓子



### — デッサンにおける観察力 —

「デッサンはデザインや絵画等すべての美術の基本である」私が高校時代に教わった言葉です。当時の私は油彩画専攻でしたが、デッサンはあまり好きではありませんでした。描きたいように自由に描ける油絵に比べると、モチーフをひたすら観察して「立体感」「空間」「存在感」等を意識して描いていくデッサンは堅苦しいイメージがありました。

大学に進学してもその考えはあまり変わらず、デッサンよりも表現のほうを主体にして作品を作り続けていました。ところが、ある時から「描きたいものがあっても、それを表現する技術が身についていない」ため、うまく描けなくなってきました。デッサンが基本という言葉をよくよく痛感した瞬間でした。

そんな時期に「横たわる樹の根を一か月かけて一枚のデッサンを描く」という課題が出されました。高校時代に石膏デッサンを6時間で描けるように訓練してきた私にとっては驚きの課題でした。大学の実技の授業は毎日行われていたため、かなり長時間「樹根」を見つめながらデッサンをしていくことになりました。当然、3日もすれば完成レベルの出来にまで仕上がってしまいます。しかし、本当に大切な時間はここからでした。樹を近くから観察して描画してみたり、別の角度からスケッチをしてそれを踏まえて画面に表現してみたり等、6時間の石膏デッサンではなかなかできなかった「観察して描画する」ということが十分な時間のおかげで可能になったのです。そして、モチーフをじっくりと観察することにより新しい発見が生まれ、それらを画面上にのせていくことで絵に深みができてきた気がします。その課題時に教授がおっしゃった「一か月かけてじっくり観察することによって、はじめて見えてくる樹の表情がある」という言葉が今でも忘れられません。

絵を描くというのは道具の使い方や画面の構成、細部の描きこみやモチーフのとらえ方等、本当に総合的な技術が必要になってきます。そして、それらのテクニックを支えるデッサンの基礎は「観察力」です。「答えはすべてモチーフにある」と、よく言われます。自分が描きたいものを真剣に観察し、それに創造力を加えて画面上に表現すればきっと良い作品が描けるのではないかと思います。

文章

渡邊雄一 (E-mail : popinpop11@gmail.com)